

くらし・人・環境を見つめて

i land fill

ー フェニックス広報誌 ー

CONTENTS

理事長あいさつ 将来を見据えた取り組みを
INFORMATION 大阪湾フェニックス計画シンポジウム開催
シリーズ ゴミのゆくえ⑥ 搬入施設(基地)編
海中さんぽレポート①
平成17年度決算概要・フェニックス掲示板
リレーエッセイ 堺市漁業協同組合連合会 代表理事会長 高田利夫



Greeting



将来を見据えた取り組みを

大阪湾広域臨海環境整備センター
理事長(兵庫県副知事)

いおろい としひこ
五百蔵 俊彦

本年4月1日付けで理事長に就任いたしました五百蔵俊彦でございます。

平素は大阪湾広域臨海環境整備センター事業の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
微力ではございますが、事業の推進に全力を尽くす所存ですのでよろしくお願いいたします。

さて、当センターは昭和57年に設立されて以来、平成2年に尼崎沖埋立処分場での廃棄物受入れ開始後、泉大津沖埋立処分場、神戸沖埋立処分場と順次受入れを始め、皆様方のおかげで事業を安定的に、また順調に進めることができ、平成17年度末までに約7,100万トンもの廃棄物を適正に処理してまいりました。

現在、平成33年度までの廃棄物の処理のため、4番目の処分場である大阪沖埋立処分場を建設中であり、平成20年度末には受入れ開始できるよう整備を進めています。

ところで近年、廃棄物を取り巻く状況は大きく変化しています。地球規模での環境・資源問題から従前の大量生産、大量消費といった社会経済システムを見直し、循環型社会の形成に向け、リデュース、リユース、リサイクルの3Rの着実な進展が求められています。

そうした状況の中、今後、廃棄物の減量化等により廃棄物の最終処分量は減少傾向にあるものの、内陸部での最終処分場の確保が困難な状況にあること等から、大阪湾圏域における当センターへの最終処分依存度は高まるものと予測されており、我々の事業はますます重要になるものと認識しております。

しかしながら、近畿2府4県の廃棄物を安定的に処理し、長期的かつ円滑に「大阪湾フェニックス計画」を推進していくにはさまざまな課題があります。これらの課題を解決するにはまず関係者の皆様にセンター事業の現況等を理解していただくことが重要であると考え、この7月に「大阪湾フェニックス計画シンポジウム」と「埋立処分場の視察クルージング」を開催させていただきました。幸いにも多くの方々に参加をいただき、またその内容を掲載した記事にも予想以上の反応があり、大きな関心と呼んだことを喜んでおります。

今後とも大阪湾フェニックス事業の円滑な推進と将来的な課題解決のため、当センターの役職員が一丸となって全力で取り組んでまいりますので、引き続きご協力とご支援を賜りたいと存じます。

循環型社会の形成をめざして

～考えよう! 「快適なまち」、「緑の大地」そして「美しい海」を未来へ引きつぐために～

大阪湾フェニックス計画シンポジウムを開催!

7月24日(月)・25日(火)に「大阪湾フェニックス計画シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムの開催目的は、国、地方公共団体、港湾管理者、廃棄物排出者全員が、今日までの「大阪湾フェニックス計画」の実績と役割の重要性を再認識するとともに、当センターを取り巻く課題について共通の認識を持ち、大阪湾圏域の廃棄物の安定的な処理と大阪湾の環境改善に寄与する「大阪湾フェニックス計画」の今後の方向性を展望していくことにあります。

ここでは、シンポジウムの概要をお知らせするとともに、アンケート結果・参加者からの意見をご紹介します。

■第1日目 24日(月)

シンポジウムは、「大阪湾フェニックス計画の現状と課題」の説明や北野大氏による基調講演と続き、休憩の後、各分野の代表者によるパネルディスカッションが行われました。パネラーから貴重な意見が出され、500人を超える聴衆が熱心に耳を傾けていました。

また当日、参加者にアンケートを実施しました。その結果をみると、「フェニックス計画のことはよく知らない」「もっといろんなメディアを使ってPRを」「ごみの減量化が先だ」「環境への影響が心配だ」、などの意見が寄せられました。また質問のうち、今後のフェニックス計画を進めていく上で最も重要なことは何であるかについては、「費用負担に対する自治体等排出団体の理解」が最も高い割合でした。



左から順にコーディネーターの西木正氏(毎日新聞)、パネラーの北野大氏(明治大学教授)、竹内恵子氏(コープこうべ理事)、奥田剛孝氏(大阪市港湾局長)、二宮早由子氏(「株」東京久栄)、原達弘氏(姫路市環境局長)、横山隆司(当センター副理事長)

■第2日目 25日(火)

観光船「日本丸」により、3つの埋立処分場を海上視察するクルージングが行われました。大阪湾フェニックス計画の役割や大阪湾の未来を考えてもらうことを目的とし、親子連れなど約250人を乗せ、午前9時30分にユニバーサルシティポートを出航。

尼崎沖、神戸沖、最後に建設中の大阪沖埋立処分場を、約3時間にわたって視察しました。途中、当センター職員から処分場についての説明を受け、海から見る処分場のスケールの大きさに驚いた様子でした。



小学生から高齢の方まで、多くの方から関心の深さが窺えました

クルージングに使われた日本丸

シンポジウムアンケート結果

シンポジウム参加者のうち290人からアンケートを回収。アンケート項目とその結果を抜粋し、ご紹介いたします。

Q1「大阪湾広域臨海環境整備センター」を知っていましたか?

- (1) どんなことをしている団体が詳しく知っていた **46%**
 (2) 名前を聞いたことはあった **28%**
 (3) 全く知らなかった **26%**
 290人のうち92人が関係自治体職員であり、これを除く一般市民でみると(1)と回答した人は約24%と半分程度に減少する。

Q2「大阪湾フェニックス計画」についてもっと詳しく知りたいことは?

- (1) 新たなフェニックス処分場の計画について **27%**
 (2) 事業収支について **15%**
 (3) フェニックス処分場の将来の活用方法について **34%**
 (4) 海の生物など環境への影響について **24%**

Q3 今後、大阪湾フェニックス計画を推進していく上で最も重要なことは?

- (1) 費用負担に対する自治体等排出団体の理解 **37%**
 (2) 国の積極的な指導力 **22%**
 (3) 土地売却のための港湾管理者の努力 **9%**
 (4) 大阪湾センターによる積極的な事業のPR **26%**
 (5) その他 **6%**

参加者の意見・要望(シンポジウムおよびクルージング)

- ・我が国唯一の広域処理計画が合意され、実行されていることをもっとPRすべきである。(60代 男性会社員)
- ・フェニックス事業を初めて知った。ゴミの減量化、リサイクルについて、周りの人達に伝え、協力していきたい。(50代 主婦)
- ・減量化しても最終処分はしなければならない。処分場は必要である。周辺の環境への影響や生態系への影響を最小限に抑えつつ、最終処分場の確保をお願いします。環境創造の面も期待しています。(50代 男性公務員)
- ・日々考え出すに出ているゴミを改めて勉強しないとダメだと思いました。子供にも教えることができてよかった。(30代 主婦)
- ・事業を100年単位で考える時代になっていると思います。目先の経済性に左右されないことを願っています。(50代 男性無職)
- ・処分場が足らなくならないように家庭や工場から出るゴミを減らし、地球の温暖化を防ぐようにしなければなりませんと思います。(40代 主婦)
- ・自治体の中でも一部関係者以外はほとんど存在を知らなかった。メディアを通じてのPRが必要と感じます。(50代 男性団体役員)
- ・処分場を多くの子供たちに見せてあげてください。(30代 男性公務員)

前号までの処分場紹介にかわり、搬入施設(基地)を紹介します



- ① 津名基地 淡路市志筑新島
 ② 姫路基地 姫路市飾磨区今在家字近藤新田 1351 番 17 地先
 ③ 播磨基地 加古郡播磨町新島 13-1
 ④ 神戸基地 神戸市灘区瀬辺町 1 番 2 号
 ⑤ 尼崎基地 尼崎市平左衛門町 70 番地

- ⑥ 大阪基地 大阪市西淀川区中島 2 丁目 10 番 100 号
 ⑦ 堺基地 堺市西区築港新町 4 丁 4 番
 ⑧ 泉大津基地 泉大津市夕田町地先
 ⑨ 和歌山基地 和歌山市湊 2675-26 (住金構内)

基地とは、簡単にいうと、排出場所(近畿2府4県177市町村)と処分場との間に位置する中継施設のこと。受入対象区域が広範囲に及びること、廃棄物搬入による交通集中を避けるため、9つの基地が、大阪湾をぐるりと囲むように分散して位置しています。

処分場近くの海の中ってどんなトコ? 海中さんぽレポート!

神戸沖埋立処分場の緩傾斜護岸には海草が成長し、魚が繁殖しやすい環境となっています。今号から、埋立処分場周辺の海中の様子をお伝えします。



平成17年10月撮影 メジナ(場所:神戸沖埋立処分場横付け近の緩傾斜護岸)
 これは浅い岩礁域で見られるスキメジナ科の「メジナ」という魚です。体の色は濃い灰色一色で、目立った模様はなく、関西では「クレ」と呼ばれています。

平成17年度決算概要

平成17年度の事業損益は、15億2900万円の利益で前年度より2億円減益となっています。これは、管理を要する陸上残土や管理型産業廃棄物の搬入量が増加したことにより廃棄物処理料が増加したものの、廃棄物の搬入量の増加に伴う費用の増加や、これまで抑制してきた修繕を実施したことなどにより、廃棄物処理費が増加したためです。

事業外・特別損益については、3億5000万円の損失を計上しています。損失額は昨年度より2億8200万円減少しておりますが、これは事業外収益の内、深瀬土砂受入に伴う築堤負担金収入が昨年度に比べて8300万円増加したこと、事業外費用の支払利息が借入金残高の減少により6700万円減少したこと、さらに固定資産の除却に伴う特別損失計上額が7500万円減少

したこと等によるものです。また、期事業建設委託料の負担の調整の減により、事業外収益・費用が共に減少しました。

以上により、事業損益と事業外損益を合わせた当期利益は、対前年度比8200万円増の11億5400万円となりました。

今後のセンター経営状況は、平成20年度末に大阪沖埋立処分場で受入を開始すると新たな運営経費が大幅に増加するとともに、減量・リサイクルの進展等により廃棄物処理量の減少が見込まれるため、相当数になるものと予想しております。このため、引き続き、より一層の経費削減を図り、センターの安定的な運営に努力してまいります。

■損益計算書(平成16年度・17年度比較) 単位:百万円

	費用の部				収益の部		
	H17年度	H16年度	H17-H16		H17年度	H16年度	H17-H16
事業損益計算				事業収益	28,233	26,321	1,911
事業費用	26,704	24,593	2,111	廃棄物処理料	14,489	12,618	1,870
廃棄物処理費	10,220	8,517	1,703	受託事業収益	13,744	13,703	41
受託事業費	13,744	13,703	41				
一般管理費	2,740	2,373	367				
事業利益	1,529	1,729	△200				
事業外・特別損益計算				事業外収益	230	802	△572
事業外費用	524	1,302	△778	特別利益	0	0	0
特別損失	81	157	△76				
事業外・特別利益	△375	△657	282				
当期利益	1,154	1,072	82				

※百万円単位での繰越処理のため、合計値は必ずしも一致しません。

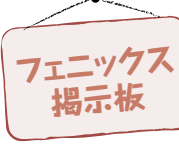
●広報用DVDを先着50名様にさしあげます

このたび、当センターでは広報用DVDを作成しました。小学生にもわかりやすい「アニメ編」と、やや専門的な「一般編」が、1枚のDVDに入っています。家庭から出されたゴミが最終処分されるまでのことがよくわかります。ご希望の方は、ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、性別をご記入の上、当センター総務課DVDプレゼント係までお送りください。(宛先の住所は裏面参照)



●のびく兵庫国体協賛

当センターは、のびく兵庫国体オフィシャルサプライヤーとして、国体の応援をするともに、センターのPR活動に努めています。





フェニックスシンポジウムに参加して

堺市漁業協同組合連合会
代表理事会長 高田利夫



大和川河口干潟護岸

1) 昔の海、今の海

昭和30年頃に、堺沖を埋め立てるという話を組合の役員がしているのを、沖に出漁する前に耳にした。そして何年か後に堺沖に大きい2本マストの木船が来た。それが石船であった。

大和川尻から見ると、小さい船に見えたぐらい沖から石入れが始まった。その頃、私たち仲間では、間違っって石を入れ始めたのではないかと思ったぐらい沖だった。石船の船団が、毎日何度も来ていた。

その頃、沖では毎日カレイやコノシロを取る漁をしており、東京送りで高い値がついた。冬は、白魚取り、夏はアサリ、ハマグリと貝を取り、小船が沈むぐらい取って来た。

高度成長が始まり、大和川尻に工場ができた。埋立地になる前に石で囲った護岸の中では、うなぎや貝が多く取れた。鳥たちが数多く集まるようになり、また、釣りブームが始まり、毎年釣人の数も増え、石という石の上には大変多くの釣人がいた。

そのブームの中、やがて釣人の真白な糸も油で黒くなりだした。昭和60年頃より魚も油くさいといわれ、取って来ても売れず、値が下がり、東京送しも止まってしまった。漁業者も、陸(おか)に上って行く者と漁業に留まる者とに別れた。私たちは、魚を取るしか仕事の道がないので、沖に出て毎日変わる潮を見ながらの漁をしていた。

でも次第に変化があった。平成に入り、環境規制が厳しくなったおかげで、水は1日1日と美しくなり、鳥も帰って来だし、魚も少しはよくなってきた。今は、昔に取れていた魚達、チヌ、ガシラ、キジハタという高級魚が取れ出して来てる。しかし、水的美しさはもどっても一度汚れた海底は二度と元には帰ってこない。

大阪湾の湾奥の海底は、もう二度と生き返らない海底になってしまった。海水は海流となって動いているが、海底は動かない。下水や沖の停泊船の捨てるゴミなどの問題もあろうが、一日も早く、大阪湾奥の海底が悪くなっている原因を見つけ出し、今後の環境対策を施すことが必要だ。しかしながら、浅場には少し光が見えてきている。

2) 大和川河口干潟への期待

大阪湾には、大阪を中心に北は兵庫の浜から、南は和歌山へと砂浜があった。北風が吹くと潮が南へ川のように流れる最高の潮の流れで、魚や貝類が沢山棲む、本当に生物の為の海であった。その中で一番は、雨水のよく出る大和川と淀川河口だ。河口は小魚が生まれ、そしてよく育つ。

魚の病院の役もする。近くに少しでも砂浜があると、冬には魚は卵を生みに砂浜をさがす。カレイなら12月頃から2月末まで産卵する。

そういう意味でいうと、大和川尻の干潟は最高の場所に造られたといえるのではないかな。雨水と海水が当たる場所である。ここでは、キスやヨシエビなどが棲みつきだしている。子供たちのために、これからも湾奥に砂場を造ってほしい。

3) 私たちの取り組み

私は、堺市の浜寺漁協、出島漁協、沿岸漁協そして私の組合である堺市漁協の4つの漁業組合からなる連合会の世話をしている。毎週土、日にとれとれ市を出し、店も魚だけでなく、肉屋から屋台の店まで色々な物を売っている。大変な数の客でにぎわっている。また、春と秋は子供たちを船に乗せて見学会を開き、子供に豊かな海について教えている。

同時に、私は、堺市漁業協同組合連合会の会長として若い漁業者の生活も考える。若い漁師はつり漁から始め、工事現場の仕事しながら何とか生活できるように、また、高齢の漁師には警戒船の仕事などと様々な仕事の世話をしている。忙しい毎日だが、私は、時間のあるかぎり沖に出て漁をしていきたいと思っている。

4) フェニックスのシンポジウムに参加して

私は今回のフェニックスのシンポジウムに参加して、いろいろな先生方の話を聞いた。私は、新しい時代の夢を見ているような気分になった。シンポジウムで議論になった、大阪湾の深掘りの場所を埋め戻すためにフェニックス事業を活用する案はすばらしい。

土地利用もさることながら、私は、長い目で見て大阪湾をいかに活用するかが重要だと思う。埋立については、海で長い年月仕事をしてきた人たちとともに考え、話し合うことが必要だが、大阪湾の未来を考え、海洋生物が生まれ育っていく海になるよう潮の流れを考えることが重要だ。埋立地の形も、流れる海水ということを見ると、角ばった形より円形の埋立がよいのではないかな。それもこれも豊かな大阪湾のためである。

大阪湾は、神戸や大阪の母なる海辺であると思う。大阪湾の自然を取り戻し、子供や子孫たちの未来の夢を自分たちが作っていきたい。早く子供が船から海を見て、美しい大阪湾やな、といわれる海を取り戻したい。白砂青松の大阪湾の夢を見ながら。それとともに、大阪湾に一生、漁業で生きていく私たち海人がいることも忘れないでほしい。

編集後記

7月に開催したシンポジウムには、うれしいことに予想以上の反響がありました。内容が新聞紙上に掲載されたこともあり、センターが行っている事業について、多くの方々知ってもらいよい機会になりました。

アンケートにもありましたが、当センターの存在や自分たちの出したごみが最終的にどう処分されているか知らなかったという意見も結構多く、ごみのゆくえについて日頃はあまり知らずに過ごしている方が多いのではないかと思います。そういう意味でも我々の事業を広くPRするとともに、3R(リデュース=発生抑制、リユース=再使用、リサイクル=再生利用)などの必要性をしっかりと訴えていくことが重要であると認識した次第です。このたび制作したDVDも、その一助となればと思っております。

ご意見やご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

(編集スタッフ一同)

i land fill Vol. 6

発行: 大阪湾広域臨海環境整備センター
(大阪湾フェニックスセンター)
<http://www.osakawan-center.or.jp/>

〒530-0005
大阪市北区中之島2-2-2 ニチメンビルディング9階

T E L 06-6204-1721 (代)
F A X 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp
i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。



古紙/バリエーション100%再生紙を使用



この印刷物は大豆インキを使用しています。

2006.10